

# Ⅲ 基本計画

## 第1編 教育・文化

- 第1章 学校教育
- 第2章 社会教育
- 第3章 アイヌ文化
- 第4章 歴史・文化財

## 第2編 保健・医療・福祉

- 第1章 健康づくり
- 第2章 地域医療
- 第3章 高齢者福祉（地域包括ケア）
- 第4章 障がい者福祉
- 第5章 地域共生・生活支援
- 第6章 アイヌ福祉

## 第3編 子ども・子育て支援

- 第1章 妊娠・出産・子育て支援
- 第2章 保育・幼児教育
- 第3章 地域の子育て支援
- 第4章 仕事と子育ての両立

## 第4編 産業

- 第1章 農業
- 第2章 林業
- 第3章 商工業
- 第4章 雇用・人材育成

## 第5編 観光

- 第1章 観光基盤
- 第2章 観光資源
- 第3章 観光プロモーション
- 第4章 観光体制

## 第6編 ゼロカーボン・環境共生

- 第1章 脱炭素・エネルギー
- 第2章 循環型社会
- 第3章 自然環境
- 第4章 景観・公園

## 第7編 安全・安心なまちづくり

- 第1章 防犯・交通安全
- 第2章 防災・減災
- 第3章 消防・救急
- 第4章 道路・交通
- 第5章 水道・生活排水・河川
- 第6章 情報通信
- 第7章 住環境・住宅
- 第8章 土地利用

## 第8編 協働・参画のまちづくり

- 第1章 住民協働・コミュニティ
- 第2章 人権尊重・多様性
- 第3章 広報・広聴
- 第4章 行財政運営
- 第5章 行政サービス・DX



# 第1編 教育・文化

## ～豊かな心を育むまちづくり～

社会経済環境や価値観が多様化し、地域社会や家庭を取り巻く環境が大きく変化する中であっても、子どもたちが心身ともに健やかに成長し、ふるさとへの愛着と他者への思いやりを育むことは、私たちの変わらぬ願いです。

町民一人ひとりが、平取町の豊かな歴史文化に誇りを持ち、生涯を通じて健康で明るく、生きがいと心の豊かさを実感できるまちの実現に向け、「豊かな心を育むまちづくり」を目指します。

政策項目		主要な取組（基本施策）
第1章	学校教育	教育内容の充実、学校運営の推進、学校施設・教育環境の充実、高校教育の支援
第2章	社会教育	家庭教育の充実、青少年教育の充実と健全育成の推進、成人教育の充実、社会教育活動の環境整備、芸術・文化活動の充実、スポーツ活動の推進、スポーツ環境の整備、図書館・読書活動の充実
第3章	アイヌ文化	二風谷アイヌ文化博物館の整備充実、アイヌ文化の理解促進及び普及啓発、アイヌ文化伝承活動団体への支援と協力、イオル空間等における伝統文化や活動の推進、実践的な調査・研究と保全・保護の推進、先住民族国際交流の推進
第4章	歴史・文化財	有形・無形文化財等の保護推進、文化的景観の保護と推進、埋蔵文化財の保護と活用、開拓財産の整備と活用



### 対応するSDGs

1 貧困をなくそう



2 健康をせよ



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう



10 人や国の不平等をなくそう



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナリシップで目標を達成しよう



# 第1章 学校教育

## 現状と課題

- ▽小中学生はともに基礎的・基本的な知識・技能が確実に習得されている一方、思考力・判断力・表現力等を要する問題解決的な学習に課題が見られます。また、体力・運動能力については全国平均を下回る傾向にあり、運動への関心の二極化も課題となっています。
- ▽文部科学省が実施する「全国学力・学習状況調査」の結果から、本町の小中学生は「話すこと・聞くこと」に課題があることが示唆されています。これに対し、各学校では「内外の学校評価の活用」や「校内体制の強化」などを通じて、教育活動の改善・充実に努めています。
- ▽多くの学校施設で建設から年数が経過し、老朽化が進んでいます。児童生徒が安全・安心な環境で学習できるよう、計画的な施設整備が求められています。
- ▽学校の統廃合については、子どもたちの教育環境に配慮しつつ、必要な条件整備を慎重に進めていく必要があります。
- ▽北海道平取高等学校については、地域とともにある学校として存続できるよう、関係機関と連携し、生徒確保と魅力ある学校づくりを一層推進していく必要があります。特に、全国的な生徒減少の潮流の中で、地域外からも生徒を惹きつけるための特色ある教育活動の展開と、その受け皿となる住環境等の整備が喫緊の課題です。
- ▽アイヌ学習を各小中学校及び平取高校で推進し、地域の財産であるアイヌ文化の理解、普及に努めています。
- ▽北海道平取養護学校については、地域の特別支援教育の中核的存在として重要な役割を果たしています。小・中学部の児童生徒数は減少傾向ですが、高等部の生徒数は増加傾向で推移しており、児童生徒の自立と社会参加に向けて、引き続き支援をしていく必要があります。

## 目標



- 町の未来を担う子どもたちが、変化する社会に適応し「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた「生きる力」を育めるよう、ICT（情報通信技術）の活用を含めた教育内容の一層の充実を図ります。
- 児童生徒の安全・安心と質の高い教育効果の確保及び向上のため、学校施設の計画的な整備や教材教具の充実及び必要な経済的支援を推進します。
- コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）等を活用し、家庭や地域社会に開かれた学校づくりを進めます。保護者や地域住民の理解と参画を得ながら、地域とともにある学校運営を推進します。
- 地域にとってかけがえのない財産である北海道平取高等学校の存続と発展のため、地元の生徒からも積極的に選択される魅力的な教育環境づくりを進め、町内中学校からの進学率向上を図ります。あわせて、「地域みらい留学」等の全国募集や、地域住民との交流機能を備えた「地域共生型高校生寮」の整備を行い、全国から選ばれる特色ある高等学校づくりを支援します。
- 北海道平取養護学校、町内小・中学校、北海道平取高校の交流を支援し、特別支援教育への理解・普及啓発を推進します。また、引き続き平取養護学校送迎バス運行支援を行い、通学に係る保護者負担の軽減を図ります。

## 主要な取組

取組No.	基本施策	単位施策名	担当
1	教育内容の充実	確かな学力の向上、健康教育の推進、特別支援教育の充実、ふるさと教育の充実、公設塾の運営による個に応じた学習機会の提供と進路支援の強化	生涯学習課
2	学校運営の推進	地域に根ざした学校運営の推進、小規模校の活動推進、校内外研修・研究の充実	生涯学習課
3	学校施設・教育環境の充実	特別支援学校への支援・充実、就学に必要な経済的支援の充実、学校施設の整備・充実、小中学生の通学支援、教職員住宅の整備・充実、安全・安心な学校給食の提供、学校給食施設の適正な管理、学校の適正な配置、安全・安心な教育環境の整備、心の教育の充実	生涯学習課
4	高校教育の支援	生徒確保対策の支援及び検討、教育環境充実のための支援強化、地域資源を活用した特色ある教育プログラムの開発と実践支援、全国からの生徒募集に向けた体験留学の機会創出、地域共生型高校生寮の整備・運営、高校生の国際交流機会の提供によるグローバルな視野の育成支援	生涯学習課・まちづくり課

## めざすべき目標値

指標No.	項目	現状値	R12	R17
1	「全国学力・学習状況調査」含む各種学力テストの結果	小：-1.5 中：-1.3	同一学年団前年度結果を上回る	同一学年団前年度結果を上回る
2	家庭学習の定着化（小学生）	56%	70%	80%
	家庭学習の定着化（中学生）	73.5%	70%	80%
3	「運動するのが好き」と答える児童生徒の割合	58%	60%	小中平均 60%以上
4	学校給食の残食率	2.6%	2.6%	小中平均 10%以下を維持
5	アイヌ文化教育推進事業	117 授業/年	155 授業/年	165 授業/年
6	教員住宅の浄化槽新規設置戸数	0 戸	2 戸	7 戸
7	学校給食における町産または北海道産食材の導入割合（金額ベース）	75%	75%	75%
8	生徒確保（町内中学卒業生による平高入学率）	22%	30%	40%
9	北海道平取高等学校生徒確保数	40 人	60 人	1 学年 20 人以上

## 関連する個別計画

### ■平取町教育推進計画

## 第2章 社会教育

### 現状と課題

- ▽核家族化や共働き世帯の増加など、家庭を取り巻く環境の変化は、地域における家庭の教育力の維持・向上を課題としています。
- ▽中央公民館をはじめとする社会教育施設は、建設から長期間が経過し老朽化が進んでいるため、町民が安全・快適に利用できるよう計画的な改修や機能の見直しが求められています。
- ▽町内の文化サークル等では、会員の高齢化や後継者不足により活動の継続が困難となる団体も出ており、新たな担い手の育成が課題です。
- ▽健康志向の高まりとともに町民のスポーツへの関心は多様化しており、誰もが生涯にわたり年齢や体力に応じてスポーツに親しめる環境づくりが一層求められています。
- ▽安全で快適なスポーツ活動を推進するためには、体育館やプール等のスポーツ施設の適切な維持管理と計画的な整備が必要です。
- ▽町立図書館は、子どもから高齢者まで誰もが気軽に利用できる生涯学習の拠点として、町民の多様な学習ニーズに応える一層の蔵書充実と、魅力的な企画の実施が期待されています。

### 目標



- 幼少期が人間形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、行政と学校等が連携し、保護者向けの学習機会の提供などを通じて、家庭の教育力向上を支援します。
- 町民一人ひとりが豊かな感性を育み、芸術や生活文化に対する関心を高めるための機会の充実を図ります。
- 家庭・学校・地域が連携し、社会全体で青少年の健全育成を推進します。
- 高齢者が年齢に関わらず、生きがいを持って社会の重要な一員として活躍できるよう、多様な学習機会や活動の場づくりを支援します。
- 町民が一体となって健康・体力づくりへの意識を高められるよう、地域に密着したスポーツ活動への参加を促進します。
- 子どもたちが本に親しむ機会を充実させるため、子ども読書活動推進計画に基づいた取組を推進します。
- 子どもから大人まで、すべての町民が優れた芸術や文化に触れる機会を充実させます。

## 主要な取組

取組No.	基本施策	単位施策名	担当
1	家庭教育の充実	家庭教育の充実、家庭教育力の向上、放課後子ども教室の開設	生涯学習課
2	青少年教育の充実と健全教育の推進	学習活動の充実、男女共同参画教育学習の推進、生涯学習の推進、自然体験学習機会の充実	生涯学習課
3	成人教育の充実	異年齢・異世代間交流の充実、高齢者の活動支援	生涯学習課
4	社会教育活動の環境整備	地域ネットワークの充実、社会教育施設（中央公民館等）の長寿命化と整備	生涯学習課
5	芸術・文化活動の充実	芸術文化に触れる機会の充実、公民館施設の管理・運営と施設の利用促進、文化団体の支援と活性化	生涯学習課
6	スポーツ活動の推進	魅力ある生涯スポーツの充実、指導者の確保と資質向上、各種スポーツ団体の充実	生涯学習課
7	スポーツ環境の整備	スポーツ選手育成支援、スポーツ施設・設備の整備充実	生涯学習課
8	図書館・読書活動の整備	資料提供の充実、教養・調査・レクリエーション等支援、読書推進、教育機関・関係団体等の支援	図書館

## めざすべき目標値

指標No.	項目	現状値	R12	R17
1	子ども向け・成人向け講座の実施	年3回	年3回	年3回
2	わくわく自然体験スクール	年1回	年1回	年1回
3	公民館の利用団体数（年間延数）	863 団体	800 団体	750 団体
4	文化団体数	46 団体	43 団体	40 団体
5	優れた芸術・文化の提供回数	年4回	年4回	年4回
6	スポーツ教室・講座・研修会の開催数	0 回	3 回	4 回
7	体育施設利用者数（体育館、プール、学校開放事業）延数	37,732 人	36,000 人	35,000 人
8	図書館利用者数	8,200 人	8,000 人	7,800 人
9	学校等への図書団体貸出冊数	7,535 冊	7,500 冊	7,500 冊

## 関連する個別計画

### ■平取町教育推進計画

## 第3章 アイヌ文化

### 現状と課題

▽沙流川流域のアイヌ文化を保存・伝承する拠点として、二風谷アイヌ文化博物館が果たすべき役割は極めて重要です。アイヌ文化への社会的関心が高まる中、博物館の魅力を一層高める運営が求められています。

▽アイヌ文化への理解を国内外に広げ、その価値を正しく発信していくことが重要です。

▽アイヌ文化の理解と普及を図るには、伝統儀式や古式舞踊、口承文芸、工芸などの文化伝承団体との連携と支援が不可欠であり、次代の担い手を育成しながら活動を継続していく必要があります。

▽地域の振興事業を進める上で、アイヌ文化の伝承に必要な自然環境や社会的環境への影響を調査し、保全するための方策を講じることが、今後の重要な課題となっています。

### 目標



- アイヌ文化への理解促進と普及啓発の拠点として、博物館の収蔵資料を適正に管理し、来館者のニーズに配慮した展示を行うとともに、職員の専門性向上を図るため、関係機関との研修や研究機会への参加を促進します。また、博物館セミナーや特別展などを通じて、沙流川流域のアイヌ文化を発信します。
- 地域に受け継がれるアイヌ文化を継承していくため、地域の団体や関係者と連携し、多様な文化の共生・共存を、国内外に正しく発信し、普及に努めます。
- アイヌ文化保存会や二風谷アイヌ語教室などの活動を支援し、関係団体との協働体制の強化に努めます。また、二風谷民芸組合との連携も進め、伝統的工芸品の価値向上と工芸家の人材育成を支援します。
- アイヌ文化をはじめとする多様な歴史、文化を調査・研究し、地域に伝わる儀式・工芸・芸能の後継者養成を推進します。さらに、文化に親しむ活動、子どもたちが地域の歴史・文化に触れる体験事業、重要有形民俗文化財や重要文化的景観の保護・活用など、文化振興と地域活性化に資する総合的な取組みを推進します。また、アイヌ文化の価値を平取町ならではの魅力として磨き上げ、国内外との交流を促進することで、文化の継承と地域経済の活性化との循環を生み出します。
- イオル（伝統的生活空間）の森や沙流川流域の河川用地等を活用し、アイヌ文化に有用な自然素材の採取、植栽、試験栽培を行うとともに、かつてのコタン（集落）の再現などを通じ、地域住民が主体的に参画しながら伝統的生活文化に根ざした活動の広がりを目指します。

## 主要な内容

取組No.	基本施策	単位施策名	担当
1	二風谷アイヌ文化博物館の整備充実	博物館を活用した学習機会の提供、博物館の管理運営及び整備充実、博物館周辺施設の整備充実、二風谷工芸館の管理・運営の充実、博物館における体験型学習プログラムの推進	文化財課・アイヌ施策推進課
2	アイヌ文化の理解促進及び普及啓発	アイヌ文化の理解促進及び普及啓発、「匠の道」の活用、体験学習の推進	文化財課・アイヌ施策推進課
3	アイヌ文化伝承活動団体への支援と協力	資料の収集と調査研究の推進、伝承団体への支援と協力、伝承活動への支援・協力	文化財課・アイヌ施策推進課
4	イオル空間等における伝統文化や活動の推進	イオル整備推進事業、ウポポイとの効果的な連携方策	アイヌ施策推進課
5	実践的な調査・研究と保全・保護の推進	アイヌ文化振興等での企業林・国有林等の有効活用、文化環境アセスメントの継続的な実施、伝統的工芸品産業の支援、アイヌ文化の価値を活かした地域ブランド化の推進	アイヌ施策推進課
6	先住民族国際交流の推進	国際交流の推進、ネットワークの構築	アイヌ施策推進課
7	びらとりエコミュージアム構想の推進	沙流川流域のアイヌの伝統文化と今日的継承の価値とその活動を体系的に伝えアイヌ文化のさらなる理解促進を図る取組の推進	アイヌ施策推進課・文化財課

## めざすべき目標値

指標No.	項目	現状値	R12	R17
1	博物館特別展の来場者数（調査・研究成果の公開）	6,736人	6,800人	7,000人
2	博物館入館者数（チセ群を含む）	26,329人	28,000人	30,000人
3	工芸館入館者数	22,693人	28,000人	30,000人
4	大学・大学間と地域の連携事業	年2回	年2回	年2回
5	アイヌ工芸伝承館の入館者数	6,453人	6,525人	6,600人
6	シシリムカ文化大学の開催	年6回	年6回	年6回
7	イオル空間（3地区）の利活用	20,773人	20,000人	20,000人
8	地域文化等調査の実施	100%	100%	100%
9	国際交流事業の実施	実施	実施	実施

## 関連する個別計画

- 平取町アイヌ総合政策推進基本計画
- 平取町アイヌ施策推進地域計画
- 平取町教育推進計画
- シシリムカ IWOR 博物館計画

## 第4章 歴史・文化財

### 現状と課題

▽町内には、国指定の有形・無形民俗文化財をはじめ、数多くの文化財が存在します。これらの貴重な文化財を保護しながら、その価値を広く伝えるための普及啓発と活用策が求められています。

▽重要文化的景観として選定されている「アイヌの伝統文化と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」を保護・推進するためには、地域住民及び関係機関の理解を一層深め、「エコミュージアム」構想などの新たな活用方策と関連づけていく必要があります。

▽町内には現在 127 箇所の埋蔵文化財包蔵地が確認されており、今後も増加が見込まれます。開発行為に伴う発掘調査で出土した多くの遺物や記録類は、沙流川歴史館で保管・展示されていますが、北海道指定有形文化財を含むこれらの貴重な資料を、町の歴史を語る財産としてさらに有効活用する方策の検討が必要です。

▽開拓当時に使用されていた農機具や生活用具などの開拓財産は、平取町開拓財産資料館(旧荷負小学校)で展示公開しています。地域の歴史を伝える貴重な財産を次世代に継承するため、さらなる普及活用を推進していく必要があります。

▽重要無形民俗文化財である「アイヌ古式舞踊」の次世代への継承は、地域における重要な課題です。

### 目標



- 文化財を適正に管理・保護するための施策を継続し、文化財に対する町民の理解促進と普及啓発に努めます。また、文化財を地域の文化・観光資源として活用する新たな方策を検討し、国等の新たな文化財指定に向けた調査研究も継続します。
- 郷土の景観に誇りと愛着を持ち、地域の歴史への理解を深められるよう、文化的景観の保存・活用計画の推進に努めます。
- 埋蔵文化財包蔵地の保護について、開発行為の計画段階から事業者等の理解を得られるよう、事前協議や確認調査の手続きの周知徹底を図ります。また、出土した文化財を広く活用するため、収蔵資料の適切な管理と貸出可能な遺物の整理作業を進めます。
- 町の歴史を伝える開拓財産を適切に保存・継承するため、分かりやすく安全に見学できる環境の整備と活用に努めます。

## 主要な取組

取組No.	基本施策	単位施策名	担当
1	文化財の保護推進	有形文化財、有形・無形民俗文化財の保護と活用、アイヌ語、アイヌ口承文芸の保存・継承	文化財課
2	文化的景観の保護と活用	名勝・記念物の保護と活用、文化的景観の保護推進、文化財パトロール	文化財課
3	埋蔵文化財の保護と活用	埋蔵文化財包蔵地カード等の整備、保護のための事前協議と確認調査、発掘調査と報告書作成業務、沙流川歴史館を活用した学習機会の提供、年間入館者数、広報誌等を活用した情報発信、沙流川歴史館における企画展・移動展、特別展等の活動充実	文化財課
4	開拓財産の整備と活用	開拓財産の整備と活用	文化財課

## めざすべき目標値

指標No.	項目	現状値	R12	R17
1	文化的景観現地説明会の参加者数	29人	20人/回	20人/回
2	博物館公式ホームページ（文化的景観）アクセス数	17,956件	19,000件	20,000件
3	計画的なパトロールの実施（春季～秋季）	年2回	年2回	年2回
4	沙流川歴史館年間入館者数	22,418人	23,000人	24,000人
5	沙流川歴史館特別展、企画展・移動展の開催	各年1回開催 入館者計8,319人	各年1回開催 入館者計8,800人	各年1回開催 入館者計9,200人
6	シシリムカ文化財だより・年報の発行	たより年4回、年報年度未発行	たより年4回、年報年度未発行	たより年4回、年報年度未発行
7	開拓財産の見学者数	149人	150人	150人

## 関連する個別計画

- 平取町教育推進計画
- 平取町景観計画
- 平取町文化的景観保存活用計画